

平成 27 年度 市政懇談会（比和会場）

会 場	庄原市比和自治振興センター
日 時	平成 27 年 8 月 27 日（木）
出席者数	参加者 30 人、市 16 人
共通テーマ	「第 2 期庄原いちばん基本計画について」 ～第 2 期庄原いちばん基本計画の概要と 高齢者向けのアンケート結果について～
地域テーマ	「人口減少時代における農地の保全について」
懇 談 内 容	
<p>■共通テーマ</p> <p>メインテーマ：「第 2 期庄原いちばん基本計画について」</p> <p>サブテーマ：～第 2 期庄原いちばん基本計画の概要と高齢者向けのアンケート結果について～</p> <p>（参加者）</p> <p>庄原いちばん計画といいながら、いきなりコンパクトシティという話がでてきた。庄原いちばん計画にコンパクトシティがどのように関係するのか少し、理解に苦しむ。なぜコンパクトシティなのか。</p> <p>（市）</p> <p>第 2 期の庄原いちばん計画の着目点として、生活の安心と地域資源の活用の 2 つをあげた。このコンパクトシティは安心を感じることでできる生活環境の集約化ということで、特に着目して検討をすすめていくこととなる。アンケート等を活用して、今後の高齢化への対応のひとつとして説明をしている。</p> <p>（参加者）</p> <p>アンケート結果を見る限りでは、必ずしもコンパクトシティに結びつかない。コンパクトシティというと少し後ろ向きの印象がある。庄原に住んでよかったと思えるような施策にもう少し力点を置いてほしい。</p> <p>（市）</p> <p>現在、「比婆いざなみ街道」を構想している。高野インターから吾妻山、比婆山、道後山そして最終的に東城インターの道の駅を結ぶ街道だ。この沿線にはスキー場、休暇村など様々な観光資源もあるが、なかなか連携して利用ができていない。道路も思うように整備できていない。しかし、ここにある資源を利用して、PR していきたいと考えている。</p>	

また、この地域は豪雪地帯で、ひとり暮らしの方々の安全な生活、高齢者世帯だけの冬の生活の苦しみを緩和し、人口減少の歯止めとなるよう、コンパクトシティの取り組みを検討している。高齢者が地域で元気に安心して暮らし続けていけるよう皆さんと協議をしたい。

(参加者)

コンパクトシティを否定するものではない。高齢者だけでなく若い人たちが夢を持てるような施策を前面に力強く出してもらいたい。

(参加者)

コンパクトシティは究極の選択肢、段階的に進めていくものだと思う。住み続けるために何が必要かをまず考え、方策を提案し、そこから具体的にを行うのが基本と考える。長く住み続けるための施策をしたうえで、最後にコンパクトシティにもっていく、急に何段階もというのではなく、徐々にもって行ってほしい。

(市)

私たちも一気にコンパクトシティを進めるという思いは持っていない。

自治振興区には高齢者の見守りなど、災害対策も含め、地域の危機管理について協力をいただいているが、高齢者が現在住んでおられる地域で暮らしたいという願いをかなえるため、コンパクトシティを検討している。

(参加者)

コンパクトシティの案は大変よいことだと思う。不安を感じている人も多く、市外に出られる方も多い現状で、コンパクトシティの考えはよいと思う。他の市で空き家を活用した福祉活動やにぎわいの拠点づくりの活動を見たことがあるが、地域住民が考えてやっていくことが必要だ。各地域でモデル的な事業にして、市が支援する体制をつくってほしい。地域で考え実施すれば地域づくりにもつながる。今がいちばん適切な時期ではないかと思う。

(市)

コンパクトシティも進めていきたいが、県立広島大学生に地域に入って活動してもらおうという仕掛けを考えている。比和地域には長い間空いているいざなみ工房もある。ぜひ地域で活用してほしい。比和地域の中に活力が生まれるようなしくみを地域の人と再構築し

たいと思う。

それから、吾妻山の山開きの時に、奥出雲町との交流の話が出た。吾妻山でそば合戦をやろうという話になった。10月に実施するとの招待状もきている。こういった交流からもにぎわいや活力が生まれるように取り組んでみたい。

■地域テーマ

「人口減少時代における農地の保全について」

【自治振興区からテーマ説明】

(参加者)

Uターンして8年目。畦の草刈が大変なので、昨年、1,200㎡ほどセンチピートグラスを蒔いた。2年目で草刈の労力は減った。稲作でいちばん大変な作業が草刈である。これを広めることにより高齢者でも農地を守る延命ができると思う。助成なり、県の予算付けの要望なり尽力をしていただけないか。

(市)

センチピートグラスは県内各地で取り組みが広がっている。基本的には、中山間地直接支払制度や多面的機能直接支払制度を活用いただきたい。県への要望という方法もあるが、まずは自らの地域にある財源を活用いただき、制度の協定の中に入れるなど、地域で検討いただきたい。

(参加者)

話はわかるが、経費を削減しようとするれば、市なりJAで機械を購入すればコストも抑えられるのではないか。

(市)

機械を使用するのは吹き付けの場合だと思う。備北バイオの里づくり研究協議会では、経費を抑えた方法や、苗作りについて研究してもらっている。植え付け方法など試験的にもやってもらっている。いまのところ手植えが標準である。

吹き付けについては奨励しないわけではないが、機械を農林振興公社に整備し、活用範囲を広げ、農家の皆様に気楽に取り組んでもらえる方法も検討しているが、結論は出ていない。

(参加者)

できれば公社に導入してほしい。吹きつけは半年で成育する。機械は高いかもしれないが、農家の負担を軽減するため再度検討をいただきたい。

(参加者)

昨年の市政懇談会で、あけぼの荘改築についてお願いをした。改築の方向で進めていただき、住民も大変喜んでいる。

庄原いちばん計画で、地域産業のいちばん、くらしの安心のいちばん、にぎわいと活力のいちばんの3つを掲げ、高齢化が不安な中、安心して暮らしていることに感謝している。コンパクトシティはいろいろ言われているが、将来的には必要な事業だと考える。比和は雪も多く、冬期のサービス低下に不安がある。コンパクトシティにより、福祉の充実、くらしの安心のいちばんの取り組みが進むと思うのでよいことだと思う。

あけぼの荘の改築にあたっては、内容面がこれから協議されると思うが、住民の意見をくんで、多くの人が集える施設となるようお願いする。

(参加者)

農林振興公社についてお願いがある。比和の場合、地形等から集落営農や法人化はむずかしく、合併前に比和町農林業公社を作った経緯がある。それ以来、受託作業を中心に、5千万円くらいの受託料を生んでいると思う。現在、防除、耕起、田植、稲刈、最近ではそばと、公社への依存度は高くなっている。しかしながら、若い職員が次々とやめていく状況がある。移住定住の施策とあわせ人材育成をすすめていただきたい。

もうひとつ、公社の看板が比和町時代のままである。新しい看板をお願いしたい。

(市)

公社の運営に対してはご心配をおかけしている。市としても危惧している。現在公社の対応、立直しについては具体的な検討を始めている。八木店での野菜等の農産物販売をやめ、それからは農作業の受託一本にしぼりこんだ運営になっている。現場は厳しいものがあり、職員の採用も含め、対策を検討している。若い力の活用も検討していきたい。看板については、指示不足である。対処する。

(参加者)

農業委員会のアンケートは、インターネット上で公開されているとの説明だったが、もう公開されているのか。

(市)

アンケートの内容は、農地情報システムを4月から稼働している。農地情報の公開は、一筆ごとに本人の同意が必要であり、ほとんど情報が入っていない状況である。今年1月に全国でこの調査を行ったが、20%程度の回答しか返っていない。庄原市では、6,291の農家に案内し、3,160件の回答があった。現在、インターネット上で検索しても、未公開、調査中という表示がでる。情報の入力を進めているところである。

(参加者)

貸し借りの情報だけでなく、回答した農家がどんなふうを考えているかといったことは公開しないのか。

(市)

全体の傾向などの状況は、現在集約中である。結果がまとまれば農業委員会だよりでお知らせしたい。

(参加者)

農業委員会に行けば内容を教えてもらえるのか。

(市)

全体の集約が整っていないため、もう少し時間をいただきたい。

(参加者)

農地の保全について、現在私はいろいろな制度を活用させてもらっている。

庄原市独自の施策で農業を活性化し、いつまでも住み続けられることを強力で推し進めていただきたい。

集落営農や法人化は、理解が得られていない状況の中ですすめていくのは難しい状況である。営農集団を活用する取り組みとして、市からの助成といったものを新年度からでも考えていただけないか。営農集団を活用して、地域のにぎわいができるような取り組みを進めていただきたい。

(市)

市も昭和の時代に営農集団の組織化、機械の共同化などの支援を行った。集落営農法人

や法人で無い場合、資金繰りなどに困難な状況も生じる。営農集団の支援を否定するものではないが、県・市とも法人化を推進している。

なお、現在、庄原市農業振興計画を策定中で、営農集団の代表の方も委員として参画いただいている。この中でご意見をいただくようお願いしたい。

■市長まとめ

庄原いちばん計画の中で、比婆牛ブランドの再生を説明させていただいた。比和地域にもこれまでの財産や取り組みなど様々なものがあるが、この比婆牛のように、過去から庄原市のすばらしい財産として築き上げられたものをもう一度磨き上げる、ブランドとしてしっかり受け継ぐ。これは典型的なやり方だと思う。

あけぼの荘や、いざなみ工房をどうするかということで、地元の皆さんに協議をいただいているが、皆さんの熱意とやる気によって、庄原市としても決断するときが来ると思うので、比和地域にある財産をしっかりと守りながら、私たちの周りにあるものをもう一度どうやって光らせるか、利用をどうするのか協議を進めていきたい。

市政懇談会だけではなく、市役所や支所へ出向いていただき、様々なご意見をいただきたい。有害鳥獣対策では、市職員に狩猟免許をとってもらうなどの取り組みを進めているが、市・市民一体的で取り組む必要がある。

皆さんとともに、庄原のため、庄原いちばんづくりのためになればと思っているので、これからも様々なご意見をいただくようお願いをする。